MUSASHINO for TOMORROW

Vol.109

巻　頭
自分のしていることを愛しなさい
ペーター・ヤブロンスキー

私の学園生活
就職活動について話そう

卒業生インタビュー
常に変化しつづけたい
千脇健治

表紙：重松　聡（ピアノ）

April 2014
vol.109

平成26年度を迎えて

武蔵野音楽大学学長　同附属高等学校校長　福井直敬

例年になく厳しい寒さが続いた冬が去り、江古田・入間両キャンパスの自然に再び春の息吹が感ぜられるようになりました。冬季オリンピック・パラリンピックの手に汗を握る熱戦も幕を閉じ、厳しいトレーニングに堪え、精神を集中して一途に目標を目ざすアスリート達の姿から大きな感銘を受けるとともに、音楽の修練にも相通じる貴重な示唆を得ることができました。

さて、一昨年の暮に第二次安倍政権が誕生して以来、高等教育に対しても矢継ぎ早に提言や答申が出されております。その第一は大学の質の保証であり、これには教育力の向上と合わせて適切な教育プログラムの編成等、教学マネジメントの構築が必要です。そのために、これを支える大学の経営基盤の確立、明快かつ効率的な運営組織の編成、さらには教育施設・設備の整備も欠かせません。

本学では、新年度も授業内容の充実・向上のためのFD活動の一層の強化、昨秋行った学生の授業評価アンケートや卒業生による満足度調査結果の授業への反映、シラバス記載内容の改善等、全学的教学マネジメントの構築に一層の努力を傾けてまいります。

また、本学では、教育環境の革新的な改善を図るために「江古田新キャンパスプロジェクト」を推進中で、平成28年度末までに江古田校舎の全面改築を予定しておりますことは、本誌新年号で詳細をお知らせしたとおりです。このプロジェクトに伴い、昭和51年以来、江古田・入間の二つのキャンパスで実施してきた音楽学部の授業は本年度が最後となり、明年度以降は、全学年が揃って同一のキャンパスで新たな学園生活を送ることになります。

さらに、このハード面の改革と併行して、多様な価値観やニーズを持つ学生諸君の要望に応えるために、学科改組、カリキュラムの改定、事務組織の改編等について、現在、将来構想委員会で検討を進めているところです。

これら広範な計画の進捗に伴い、皆様に何かとご面倒をおかけすることもあるやに存じますが、何とぞ温かいご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

武蔵野音楽大学　入間キャンパスの春

自分のしていることを愛しなさい

● ペーター・ヤブロンスキー（ピアニスト）●

© B. Ealovega

ペーター・ヤブロンスキー
Peter Jablonski

南スウェーデン生まれ。6歳でピアノを始め、たちまち非凡な才能を発揮して、11歳でピアノソロデビュー、翌年にはモーツァルトのK.453でコンチェルトデビューを果たす。マルメ音楽アカデミーを経て英国王立音楽大学にてピアノと指揮を学び、在学中にウラディーミル・アシュケナージの目にとまり、アシュケナージ指揮ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団との共演でDeccaからCDデビュー。

1992年ワシントンDC、'93年ロンドン、ロイヤル・フェスティヴァル・ホールでのデビュー以来、フィラデルフィア管弦楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団、BBC交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、フランス国立管弦楽団、NHK交響楽団など世界のトップクラスのオーケストラと、またシャイー、ミョンフン、デュトワ、ゲルギエフ、アシュケナージ等著名な指揮者と共演するほか、多数のCDをリリース。

ソロ活動のほか室内楽、指揮、芸術監督を務めるなど、世界各地で活躍。

'97年、ヴォイチェフ・キラールから献呈されたコンチェルトを世界初演し、オルフェウス賞受賞。'05年、スウェーデン国王より文化功労章メダル受章。

名だたるトップオーケストラ、指揮者との共演は数知れず、五大陸のすべてで演奏会を行い、文字通り世界を股に掛けて活躍しているピアニスト。その端正な容姿から“ピアノの貴公子”と呼ばれ、今まさに円熟のときを迎えているペーター・ヤブロンスキー氏。昨年10月には、リサイタルのため来日された氏を招いてのピアノ公開講座が本学ベートーヴェンホールで催され、多くの聴衆がつめかけました。江古田キャンパスにお越しになった折、名ピアニストの音楽家としての経歴やプログラムへのこだわりなど興味深い事柄について、本学・福井直昭教授が伺いました。
（2013年10月30日インタビュー）

ドラムからピアノ ジャズからクラシック

福井　今回は本学の公開講座のためにお越しいただき、ありがとうございます。まず初めにヤブロンスキーさんの音楽の経歴についてお伺いしたいのですが、かなり小さな頃からドラムに親しんでいたことが知られています。

ヤブロンスキー　はい、私自身はよく覚えてはいないのですが、父が言うには4歳か5歳の頃に始めたようです。

福井　お父様は音楽の先生だったとか？

ヤブロンスキー　父はもともと音楽家でした。最初はクラシックからスタートしたのですが、早々にジャズに転向しました。クインテットでトロンボーンやサックスを吹いており、演奏旅行でスウェーデンを訪れた際に母と知り合ったのです。そこに暮らすようになった父は、音楽教師を職業としたわけです。

福井　お父様はポーランドの方でしたね。

ヤブロンスキー　そうです。私はスウェーデン生まれ、スウェーデン育ちです。

福井　ドラムを始められたきっかけは？

ヤブロンスキー　父が私を職場である学校に連れていってくれ、自分が働いているあいだ、その辺にある楽器を自由に触らせてくれたんです。そして私がドラムを叩くのを聴いて、「この子は、やたらに叩いているのではない。何か音楽的なものを持っている」と気づいたということです。家には常に音楽が溢れていました。クラシック、ジャズに限らず、いろいろな音楽に囲まれて育ちました。

福井　ピアノは何歳から？

ヤブロンスキー　5、6歳ですね。家に古いピアノがあり、最初はピアノ

教師でもあった父に教えを受けました。父に習ったのは、最初の2、3年ほどでしょうか。他の優れた先生の指導を受けたほうがいい、父はそう考えたようです。

福井　もう一つ有名なエピソード。僅か9歳で、ニューヨークにある世界一の名門ジャズクラブ、ヴィレッジヴァンガードにドラマーとして出演し、伝説のジャズマンであるマイルス・デイヴィスの賛辞を受けたそうですね。

ヤブロンスキー　すごく小さい頃のことですが、覚えています。周りは憧れていたミュージシャンばかりで、そこに招かれて演奏するのは夢のような出来事でした。

福井　ドラムでそれほどの実績がありながら、クラシックのピアニストを目指そうという気になったのには何かきっかけがあるのでしょうか。

ヤブロンスキー　11歳のときにマルメの音楽大学に入学しました。第一専攻はドラム、第二専攻はクラシックのパーカッション、そして第三専攻がピアノでした。本来は18歳から入るべきカレッジなのですが、政府の特別なはからいで特待生として入学を許されたわけです。そこでベソロフスキーというポーランド人の素晴らしいピアノの先生に出会いました。彼はパリで学び、ラヴェルの友人だった人から指導を受けたといいます。その先生との出会いがきっかけで、パーカッションからピアノへと徐々に興味が移っていきました。

▲ ジャズドラマー　B. リッチ氏と

アシュケナージとの出会い

福井　あるプロフィールに11歳でピアノソロデビューとありますが、本当ですか？

ヤブロンスキー　本当です。ショパンのノクターンとか、モーツァルトのソナタを二つといった程度のプログラムですが、リサイタルを開きました。でも、ピアニストとしての正式なデビューは、モーツァルトのコンチェルトを弾いた1年後の12歳のときだと言えるでしょうね。

福井　その後、イギリスの王立音楽大学に進み、ここではピアノと指揮を学ばれますね。何度も指揮者、ソリストとして共演しているアシュケナージとの出会いも、この頃ですか？あなたがテープを送ったのがきっかけだったとか。

ヤブロンスキー　それは少し違いますね。その頃、私にはスイスの小さなマネジメント会社のマネージャーがついていまして、彼がアシュケナージにコンタクトをとって、チャイコフスキーのコンチェルトを弾いたテープを渡したというのが真相です。最初のレコーディングはシャイーの指揮でとレコード会社は考えていたようですが、アシュケナージが興味を示してくれたため、彼に指揮をしてもらうことになりました。ガーシュウィンを選曲したのは、レコード会社、デッカの選択です。会社としては、ジャズから転向してきたというバックグラウンドを持つ少年の演奏として、ガーシュウィンが面白いと思ったのでしょう。

福井　そのアシュケナージのことをお聞きしたいのですが、彼の妹のエレーナさんが20年近く、武蔵野で教えているのはご存知ですか？

ヤブロンスキー　そうですか、知りませんでした。というより、妹さんがいることすら知りませんでした。アシュケナージは、私のキャリアにとっての恩人です。彼がいなければ、いろいろなコンクールを受けなければならなかったでしょうし、そもそもコンサート・ピアニストとしてのスタートを切ることはできなかったと思います。彼はとても温かく、寛大な人です。共演の際にも「こうしろ、ああしろ」といったことは決して口にしません。自由を与えてくれ、自分のしたいようにさせてくれるんです。

▲ V. アシュケナージ氏とのリハーサル風景

ピアニストの問題

福井　以前ある雑誌で読んだのですが、ヤブロンスキーさんは新しい難曲を練習する際に、まず右手を練習して、次に左手を練習して、最後に両手にするとか…。

ヤブロンスキー　そんなことはありません。曲によって違いますし、お決まりのやり方などありません。それぞれの手を別々に記憶する、暗譜するということはありますが、普通は、まずとにかくゆっくりと練習を始めるということでしょうか。

福井　そうだと思いました（笑）。相当我慢強い人でない限り、右手だけやって、左手だけやって、というのはあり得ないでしょうね。ヤブロンスキーさんの、リサイタルに向けての準備、練習といったあたりにも非常に興味があるのですが。

ヤブロンスキー　たくさん練習します（笑）。

福井　素晴らしいメッセージです（笑）。では、リサイタル当日はどう過ごしますか？

ヤブロンスキー　その時どきによって違います。決まった過ごし方というのはないですね。毎回ホールは変わりますし、ピアニストの場合はヴァイオリンやトロンボーンなどの持ち運べる楽器と違って、その都度異なるピアノを弾かなくてはなりません。ですので、ホールの響きを確かめたり、ピアノをチェックしたりすることに時間を費やすのは当然のことです。

福井　ヤブロンスキーさんは、演奏の他に指揮、作曲もされるそうですね。

ヤブロンスキー　はい、十分とは言えませんが。もっと作曲したいのですが、思うように時間がとれません。何をするにも時間が足りないというのが現状です。レパートリーがたくさんあって、常に時間をかけて練習し続けなくてはならないというのが、ピアニストの宿命ですね。

プログラミングのこだわり

福井　私がヤブロンスキーさんに惹かれる理由として、演奏そのものはもちろんですが、CDや演奏会のプログラミングも大きな要素となっています。「コントラストをつけるのが好きだ」という発言をどこかでされていたと記憶しています。

ヤブロンスキー　そうですね。

福井　すごくスタンダードな曲がまずあって、それに有名な作曲家のあまり光が当たっていない曲を加える。私自身もそういう構成が好みです。

ヤブロンスキー　リサイタルのプログラムは、いわば食事のようなもの。前菜があり、メインディッシュがあって、デザートが続く。そのコンビネーションが大事です。歴史的なもの、キャラクター的なもの、あるいは感情的なものなど、何か共通する一貫性のあるものをコンセプトに構成したいと思っています。

福井　3歳年下の弟さん、パトリックさんとのデュオCDで、ガーシュウィンの曲やリストの『ドン・ジョヴァンニの回想』などが収められているものがありますが、あれも収録曲の流れが素晴らしいですね。『ラプソディ・イン・ブルー』などがあり、同時に有名でない曲が自然につながっていく。

ヤブロンスキー　福井先生は、私のことを私以上にご存知ですね（笑）。そのCDのことは、忘れていました。最近は弟と一緒に弾くことはあまりありませんが、少し前にストックホルムの大きなホールで2日続けてリサイタルをしたのですよ。

福井　この号が出る頃には終わっていますが、今回の来日で行うリサイタルのプログラムはいかがでしょう。

▲本学で行われたヤブロンスキー氏のピアノ公開講座
（2013年10月30日／ベートーヴェンホール）

ヤブロンスキー　私は常々もっとバッハを弾きたいと思っているのですが、なかなか時間や機会がありませんでした。今回はバッハを組み入れるにあたって、福井先生のご指摘のように、あまり知られていない曲を入れたいと思いました。そこで、『カプリッチョ』を選びました。これは、スウェーデンに旅立つ自分の兄のために、さよならのプレゼントとして書いた曲。スウェーデン人である私には特別なものを感じる曲なのです。この曲が、その後の北欧のグリーグの世界を導いていきます。

福井　CDと言えば、ご自身のレーベルを作ったそうですね。

ヤブロンスキー　デッカでは随分レコーディングしましたし、良い経験をしました。ただ、大きな会社でのレコーディングだと、どうしても色々な制約も束縛も出てきます。そうした中で自分はこれを録音したいという思いがだんだん強くなり、自分のレーベルを持つに至ったわけです。

福井　つまり音とかの問題ではなく、セレクションの制約から逃れるためということですね。クラシックの世界だからこそ、大切な事だと思います。

象の皮膚 クラゲの皮膚

福井　プライベートなことを少しお聞きしたいのですが、お住まいはずっとロンドンですか？

ヤブロンスキー　半年ほど前からリスボンに移りました。妻の両親はポルトガル人とイギリス人なんです。休暇でリスボンに行って、太陽の下で美味しいコーヒーを飲みながら妻と顔を見合わせ「どうして僕たちはロンドンに住んでいる必要があるんだろう？」ということになったんです。ロンドンには留学以来24年間暮らしましたが、雨にはもう飽き飽きです（笑）。

福井　お子さんは？

ヤブロンスキー　娘が一人います。実は今日、彼女の誕生日なんです。12歳になりました。

福井　それはおめでとうございます。後でお電話を（笑）。ところで、故郷のスウェーデンはどんな国ですか。

ヤブロンスキー　何となく日本に似ているように思います。秩序がありますし、社会的に進んでいますし、自然が美しい。ただし、食べ物は日本ほど美味しくありません。

福井　最後になりましたが、武蔵野の学生へのメッセージをお願いします。

ヤブロンスキー　とにかく練習しなさい。それが基本。もしあなたがプロフェッショナルの音楽家になりたいと思い願っているのなら、自分のしていること、自分のしている音楽をとことん愛することです。アスリートとしてのスタミナもなくてはいけません。また、象のような皮膚を持ち、かつクラゲのような皮膚も持たなくてはいけない。つまり、センシティブであると同時に、タフでなければなりません。何より練習は限りなくエンドレスにしなくてはいけません。そして繰り返しますが、自分のしていることを愛することが大事です。

（通訳：重松万里子）

▲ ピアノ公開講座にて（2013年10月30日／ベートーヴェンホール）

音楽の万華鏡 26

二つの定期演奏会

昭和初期にあたる1920年代後半から1930年代前半にかけて、二つのオーケストラが特徴的なプログラムで定期演奏会を行っていました。NHK交響楽団の前身である新交響楽団と、東京藝術大学音楽学部の前身である東京音楽学校オーケストラの定期演奏会です。

1927年から近衛秀麿を正指揮者として定期演奏会を開始した新響は、その年、ベートーヴェン没後100年ということもありベートーヴェン特集を組んでいますが、近衛は、記念の年に拘わらずベートーヴェンを頻繁に取り上げています。指揮者や演奏者たちの国籍によってベートーヴェンの作品の演奏に大幅な違いが出ても、作品とのあいだに違和感を抱かせないところに民族性を超越したベートーヴェンの音楽の普遍性がある、というのがその理由です。

東京音楽学校オーケストラは、1931年にドイツから赴任したクラウス・プリングスハイムが指揮するようになってからは、その初回の定期演奏会をベートーヴェン《エグモント序曲》、J.S.バッハ《4台のピアノのための協奏曲BWV1065》、ワグナー《トリスタンとイゾルデ》から〈前奏曲と愛の死〉、ブラームス《交響曲第1番》で組んだのをはじめ、その後の定期演奏会も、ブラームス《ドイツ・レクイエム》、マーラー《交響曲第2番》、R.シュトラウス《ツァラトゥストラはこう語った》の日本初演など、独墺の響きに焦点を当てた曲目構成が特徴的です。独墺の作品を複数取り上げることで、それらに通底する音楽文化や音思考を現前させようとするプログラムです。

プリングスハイムは、ワグナーが亡くなった頃から西洋音楽を組織的に取り入れ始めた日本の楽壇を、大いなる音楽史の流れの中に漕ぎ出している建造中の船にたとえています。一つの作品が生み出されるのは厖大な歴史的蓄積があってのことで、歴史に受け入れられなかった状態から、受け入れられるに至る変遷を経ていることを見逃してはいけないと警告しているのだと思います。作品の懐の大きさの中に演奏解釈の想像力をはばたかせると同時に、その作品が生み出された歴史的衝動を把握する両輪が必要である、と二つの定期演奏会は実践しつつ示唆しています。

なお、プリングスハイムは1951年から武蔵野音楽大学教授として作曲、オーケストラ、合唱の指導と指揮に当たり、1963年には武蔵野音楽大学名誉教授の称号を授与されています。

楢崎洋子（本学音楽学教授）

就職活動について話そう

春がおとずれ、本学園もキャンパスに新入生を迎える一方、4年間の学生生活を終えた先輩たちが新たな世界へ羽ばたいていきました。卒業後の進路決定は、その後の人生を左右する大切な岐路となります。今回は、難関をくぐり抜けて目指していた道へと歩き始めた3名に、ご自身の就職活動をふり返ってもらいました。
（2月4日取材、文責編集部）

これから進む道

── まず、武蔵野卒業後の進路をお聞かせください。

池永　全日本空輸（ANA）の客室乗務職、キャビンアテンダントに内定をいただきました。

池永彩夏　*Ayaka Ikenaga*

茨城県出身。茗溪学園高等学校卒業。声楽を佐橋美起氏に師事。本年3月武蔵野音楽大学を卒業。全日本空輸㈱に客室乗務員として就職。

渡辺　千葉県の公立中学校の音楽教員採用試験に合格しました。ただ、すぐに教員にはならず、武蔵野の大学院を修了した平成28年の4月からの採用ということになります。

田中　公益財団法人 北九州市芸術文化振興財団に内定をいただきました。

── 渡辺さんは極めて難しい教員採用試験に受かったにも関わらず、一旦保留して大学院に進むわけですね。

渡辺　私は高校も武蔵野の附属で、大学そして大学院までここで学びたいという思いが、教員になりたいという思いより先にありました。大学院で学んでから教員になる、それを応援してくれるような制度（大学院名簿登載猶予制度）が千葉県にはあるということを知り、これこそ私のためにある制度だ（笑）、ということで決めました。

── 皆さん、その進路を選んだ理由は？

田中　私は地元で中学時代から合唱とミュージカルの活動をしており、北九州のたくさんの劇場に親しんできました。そして大学の学友会活動の中で企画・渉外を担当し、イベントを企画することの面白さに目覚めました。芸術の発展に貢献できる仕事ですし、プライベートな時間に今まで通り演奏会などの活動ができるということも大きかったですね。

渡辺　大学に入ってから小学校での学習ボランティア活動を始め、そこの先生方と交流する中で教員という仕事に魅力を感じるようになりました。もともと地元で働きたいという希望もありました。

池永　歌とダンスを将来の仕事にしたいという気持ちがあり、当初は就職活動にあまり乗り気ではありませんでした。ただ、ANAのキャビンアテンダントになられた先輩、母の友人で同じくCAをされていた方のお話に影響され、さらに会社説明会などに参加して現役CAの方々と接しているうちに徐々に「なりたい」という気持ちが強くなってきました。

採用までの準備と苦労

── 採用試験を受けるにあたり、どのような準備をしましたか？

田中　3年生の12月から就職活動を始め、就職課の行うセミナーには全て参加しました。自己分析とか面接練習とか、即効性のあるものばかりで本当に役に立ちました。あと一般常識の力をつけるために、SPI（就職における採用選考テストのひとつ）の勉強をかなりしましたね。

池永　色々な方にお話を聞く中で語学の必要性を実感したので、2年生まで必修だったイタリア語、ドイツ語に加え、3年生からは英語を選択し、4年生からはフランス語も聴講しました。語学の授業は、言葉そのものは

渡辺のぞみ　*Nozomi Watanabe*

千葉県出身。武蔵野音楽大学附属高等学校卒業。ピアノを福井直昭氏に師事。本年３月武蔵野音楽大学を卒業。千葉県教員（中学校音楽）に内定。大学院名簿登載猶予制度により、ひき続き武蔵野音楽大学大学院に進学。

もちろんですが、その国の文化に興味を持つとても良いきっかけになりました。

渡辺　私は3年生の10月から大学の教員採用受験対策講座に申し込み、教職教養・音楽専門・論作文の科目に加え、実技系の科目を学びました。普段からピアノは弾き慣れているとはいえ、弾き歌いとか伴奏付けとか、教員採用に向けての対策はどうしても必要になります。中学で習う歌唱曲は、全て弾き歌いできるように準備しました。

── 就職活動をする中で一番大変だったことは？

渡辺　教員採用試験の出題範囲はとても広く、勉強する事が多くて心が折れそうになることも度々でした。

▲ 武蔵野音楽大学ミューズフェスティヴァルに舞踊研究（ダンス）部の一員として出演した池永さん（2013年）

同じ道を目指す友達と励まし合いながら、なんとか頑張れたという感じですね。大学院進学も決めていたので、4年生になってからはレッスンとの両立にも苦労しました。

田中　3年生の1月頃、ほぼ毎日エントリーシートの締切日が続き、一方で大学の学年末試験の時期とも重なり大変でした。実際に採用試験が始まってからは、試験のたびに福岡まで往復しなくてはならず、体力的にも精神的にも辛かったですね。辛さから、ついつい妥協しがちになる気持ちをコントロールするのにも苦労しました。実は先に別の会社から内定をいただいたのですが、そこで働いている自分の姿がどうしても想像できなくて…。そんな折、大学の掲示板で北九州市芸術文化振興財団の採用募集を見つけて、なんとその日が申し込みの締切日でギリギリ間に合いました。

池永　特に辛いということはなかったのですが、採用の連絡を受けた瞬間、家族や周りの方たちに応援していただいたこと、選考中のさまざまな出来事がよみがえってきました。連絡をしてくださった採用担当の方には、2次面接のときから何度もお世話になっていて、その方が「私も池永さんみたいな後輩が出来たらいいなと思っていたのよ」と仰ってくださり、それを聞いたら号泣してしまいました。

▲ ボランティア先の小学校で指導する渡辺さん

後につづく後輩たちへ

── 就職活動を体験する中で、音大生ならではの強みのようなものは感じましたか？

田中　日々の練習で培われた継続力と集中力、そして目標に向かう力の強さは、どんな大学にも負けないものだと思います。音大生の場合、学校が終わったらすぐ練習という、毎日その繰り返しですから。

池永　集団面接のとき、「武蔵野音楽大学から来ました」と言うと、それだけで注目していただけました。あと、小さな頃から舞台慣れしているというのでしょうか、私自身、面接などで緊張することはありませんでした。

渡辺　池永さんも言ったように、やはり音大生には舞台度胸があると思います。教員採用試験では2次に模擬授業があるのですが、一緒に受けた方たちは可哀想になるくらい緊張されていました。私も多少は緊張しましたが、人前で演奏することに慣れているので、臆せずに臨むことができました。

── これから就職活動、採用試験に臨む後輩たちにメッセージをお願いします。

渡辺　私も最初はそうでしたが、就職活動をネガティブにとらえることが多いように思います。でも実際始めてみると、面接を受けたり、自己PRを考えたりすることは、過去・今・未来の自分を見つめ直す良い機会になったとポジティブに受け取ることができました。ですから後輩の皆さんも、前向きな気持ちで就職活動に取り組んでくれたらいいですね。

池永　先日、これからANAを目指す

という後輩に私の経験をお話しする機会がありました。もし身近に話を聞ける先輩がいるなら、積極的に会いに行くといいでしょう。私自身、尊敬する先輩の言葉に、とても影響を受け励まされました。

田中　就職のことは、学年に関わらず常に考えておくことが大切です。音大生の場合、次のレッスン、次の試験とすぐ先の目標に目が行きがちですが、音楽とどう関わっていくのかを早いうちから自分に問うことで、広い視野で将来について考えることができるのではないでしょうか。また、各種のセミナーは積極的に活用すべきですし、悩みなどあったら就職課の先生に相談すると良いでしょう。私も就職活動の波の中で自分を失いかけたとき、先生の一言で助けられました。

意欲を胸に明日へ

── 進路が決まり、何か心境面での変化はありますか？

渡辺　最初は実感が湧きませんでした。ただ、決まった後にボランティア先の小学校に行って子供たちとふれあう中で、本来なら今すぐにでもこの30人の子供たちをまとめる力をつけないといけないんだという思いにとらわれ、それ以降はあらゆる場面で「どう行動したらいいのか、どう声を掛けたらいいのか」と考えるようになりました。

田中　就職活動の最中は、もし決まらなかったらどうしようと悩み、周りに流され闇雲に突き進んでいることもありました。その時期と比べると、今は落ち着いて自分は何をしたいのかと考える余裕が出てきました。

池永　カフェでのアルバイト経験があって、そこで学んだのは、普段から人に優しく接するように心掛けないと接客業は上手くいかないということ。それは客室乗務員にとっても、当然同じです。ただ、客室乗務員は接客に加え、保安要員としての任務が重要です。お客様の安全を守るということ。そうした面で、今後精進しないといけないと気持ちを新たにしています。

── 最後に、今後どのように仕事に取り組んでいきたいか抱負をお聞かせください。

池永　これまでCAの専門的な勉強は何もしてきませんでした。幸いANAは入社時期に幅があり、私は5月末からの入社ですので、それまでの時間を活かして最低限の知識を身に付けたいですし、語学力も今後さらに高めたいと考えています。実際に入社してからは、お客様のことを考えて接客するのは当然ですし、保安要員としての仕事をきちんとこなすために健康管理にも気を付けたいですね。そして常に周りの人への感謝を忘れず、一人でも多くの方を笑顔にできるキャビンアテンダントになりたいと思っています。

田中　芸術全般に関わる仕事ですので、クラシックに限らずさまざまな分野の芸術に関心を向けたいですし、福岡の方々が今まで体験できなかった素晴らしい芸術を提供できたらと思っています。人に感動を与えられるプロフェッショナル、それを目指して頑張ります。

渡辺　2年間大学院に行きますが、教員になるための準備期間でもあると肝に銘じ、音楽性を高めると同時に、幅広い教養、教育に関する知識や技能を身に付けたいと思っています。そして何より、子供たちが音楽を心から楽しめるような体験をさせてあげられる、そんな先生になりたいですね。

▲ 西南女学院高等学校OG公演ミュージカル「キャッツ」に出演した田中さん（最前列右から3人目/2013年）

田中ありさ *Arisa Tanaka*

福岡県出身。西南女学院高等学校卒業。声楽を室北昌子、岩永圭子の両氏に師事。北九州メモリアル女声合唱団に所属し、ミュージカル及び合唱の活動を行っている。本年3月武蔵野音楽大学を卒業。公益財団法人 北九州芸術文化振興財団に就職。

卒業生インタビュー

常に変化しつづけたい

● 千脇健治（株式会社ビュッフェ・グループ・ジャパン　代表取締役社長 兼 CEO）●

クラリネットを演奏する人にとってはお馴染みのビュッフェ・クランポンを柱とし、現在では数多くのブランドを擁する世界有数の管楽器メーカー、ビュッフェ・グループ。その日本法人であるビュッフェ・グループ・ジャパンの代表取締役社長 兼 CEOが、武蔵野でトランペットを専攻した千脇健治さんです。東京都江東区にあるショールームを備えたオフィスにお邪魔して、お話を伺ってきました。
（2014年2月15日取材、文責編集部）

── まず、御社についてご説明ください。

千脇　私どもの母体となるビュッフェ・クランポンは約200年の歴史を持ち、近代クラリネットの原形を開発した会社とされています。当初は木管楽器専門でしたが、現在ではフランスとドイツ合わせて9ブランドを傘下に、ビュッフェ・グループとして木管・金管の管楽器全般を扱っています。日本法人である当社の事業内容は、ヨーロッパで生産された自社ブランドの管楽器を全国の公認特約店さんに卸販売することを中心に、楽器の啓蒙や普及のために著名なアーティストと協力しながらコンサートや教育活動なども行っています。

千脇健治 *Kenji Chiwaki*

1963年生まれ。千葉県出身。千葉県立千葉東高等学校卒業。'85年、武蔵野音楽大学器楽学科トランペット専攻卒業。井上雄二氏に師事。'85年、サン・ミュージカル・サービスに入社。シンセサイザー・オペレーター部に配属。'86年、ビュッフェ・クランポン株式会社入社（'12年に株式会社ビュッフェ・グループ・ジャパンに改称）。営業、社長室長、企画部長等を経て'07年7月より代表取締役、'14年1月より代表取締役社長兼CEOに就任。

── 武蔵野卒業から現在に至る経緯をお聞かせください。

千脇　卒業して最初に就いたのは、録音スタジオでシンセサイザーを使って音を作るシンセサイザー・オペレーターという仕事。楽しく刺激的な職場でしたが、昼夜が逆転した生活に慣れることができず、1年ほどで退社してしまいました。退社後の宙ぶらりんな状態の時、高校時代のトランペットの師匠だった故・関根剛二先生が声を掛けてくださったんです。「ビュッフェ・クランポンという会社がトランペットの講師を募集しているので、試験を受けてみたら」と。講習会の講師の仕事を時々貰えるのだろうといった程度の気持ちで受けたのですが、実は正社員の採用試験でした。色々なテストを受け、最後の社長面接でいきなり「それで君はいつから来られますか？」と。師匠の顔をつぶすわけにはいきませんから、そのまま入社。今日に至っているというわけです（笑）。

▲ ビュッフェ・グループ・ジャパン　ショールーム

── 現在の仕事の一番のやり甲斐や面白味は何でしょう？

千脇　私どもの製品は世界のオーケストラの多くで使われ、特にクラリネットでは、一流アーティストの大半の方々がビュッフェ・クランポンの楽器を使ってくださっています。我々は自社製品に対して愛着や自負を持っていますので、一流の演奏家たちに大事な道具として選んでもら

▲ いつも一緒にいた大学の管楽器専攻の仲間たちと（左から2人目が千脇さん）

えるということは、何より誇らしいですね。さらに日々、外部のアーティストや業者さんなど色々な方々と一緒に働くなかで、違う立場のプロ同士として互いに認め合ったり、求め合ったり、頼り合ったり、支え合ったり、そういう関係が築けることは嬉しく、やり甲斐を感じています。

── 武蔵野時代の思い出をお聞かせください。

千脇　一番思い出すのは、師事した井上雄二先生のことですね。当時、先生は指導者になりたてで、年齢が近いこともあって親しくさせていただきました。現役バリバリでしたから、ご自分の練習にも非常に熱心でした。地下の練習室で学生に混じっていつも一生懸命に練習されて、そのひたむきにチャレンジする姿にはとても感銘と影響を受けました。サークル活動では、バドミントン部の部長をしました。当時は一般大学のリーグ戦に参加していたんですよ。弱かったんですが。部員も30、40人くらいはいました。4年生の時には学園祭の前日祭実行委員長を務め、イベントの目玉として山下洋輔さんが組んでいたビッグバンドに来ていただきました。

── 武蔵野での経験や学んだことが現在どう活きていますか？

千脇　特定の知識やスキルというより、うぬぼれず、謙虚で、先輩達を敬い、仲間を大切にする――そうした精神的な部分で武蔵野に育てられたような気がします。どんな職種につくにしても、必ず人づきあいが付いて回ります。知識や技術は、それなりに努力すれば身に付けることは可能。それよりも大切なのは、人間そのものの資質、人間性だと思いますから。

── 武蔵野の後輩に一言お願いします。

千脇　私もそうでしたが、大学生ではまだまだ自分の目指す将来像が明確では無い人が多いでしょう。大事なのは、その時代、その時にしかできないことを、躊躇せずに一生懸命やるということ。そうすれば、後々の自分に直接役立つかどうか、或いは将来像への近道になるか回り道になるかは別にして、必ず自分の個性に反映し、何らかのカタチで活きてきます。ムダなことなどありません。何もせずボーッと過ごしてしまった時間だけは、後から取り返しがつかず後悔のもとになると思いますね。

▲ 武蔵野音楽大学ミューズフェスティヴァルの舞台で（左から２人目）

── 最後に今後の抱負をお聞かせください。

千脇　音大に入るような人達は、目指す道は違ってもカッコ良さへの憧れをきっと持っているはず。私自身、10年前の自分より今の自分のほうが、今の自分より10年後の自分のほうがカッコ良くなりたいと思っています。ですから満足なんてしたことありませんし、いい意味で変化し続けていきたいですね。私が常々肝に銘じている言葉に、明治時代の思想家である岡倉天心の「変化こそ唯一の永遠である」、元プロ野球選手・監督の野村克也さんの「進歩するとは、変わるということだ」というものがあります。変わり続けない限り、歴史も伝統も生まれないし、未来も開けないでしょう。自分の尻を叩く意味でも、今後もこの二人の言葉を意識していきたいですね。仕事の面では、より深く広く音楽界に関わり、少しでも貢献できたらと思っています。

▲ ビュッフェ・グループ・ジャパン　ショールームで

本学合唱団、東京芸術劇場シアターオペラに出演

去る2月20日、武蔵野音楽大学合唱団（合唱指導：横山修司）が、昨年に引き続き、東京芸術劇場シアターオペラ vol. 7に出演しました。

今回の演目はオペレッタの最高傑作といわれる、J. シュトラウス：喜歌劇「こうもり」全3幕。（指揮：ハンス・リヒター、管弦楽：東京交響楽団、演出：佐藤美晴、芸術アドヴァイザー：メラニー・ホリディ）

2014年の東京を舞台に、サラリーマン、モデル、ファッションデザイナーなどに配役を置き換えた斬新な演出で、国内外から新演出にふさわしい名歌手を揃え、見事な日本版“こうもり”が上演され観客を魅了しました。

芸術アドヴァイザーを務めた、ウィーンフォルクスオパーの伝説的名歌手、メラニー・ホリディ女史が第二幕にゲスト出演し、オペレッタの女王と謳われた素晴らしい歌声とダンスを披露し、満員の会場から万雷の拍手を浴びました。

本学合唱団は、パーティーのゲストとして出演し、演技を交えた合唱で舞台に華を添えました。また学生の数人がキャストとしても出演し、コミカルなお芝居を繰り広げて舞台を大いに沸かせました。終演後、ホリディ女史や演出家から「素晴らしい合唱団ですね」と賞賛の声が贈られ、出演した諸君にとって貴重な経験となりました。

撮影：Hikaru. ☆

撮影：Hikaru. ☆

MUSASHINO 掲示板

平成25年度 音楽大学卒業生演奏会（桃華楽堂）

平成26年3月20日、皇居内桃華楽堂で、在京の5音楽大学の代表による「音楽大学卒業生演奏会」が、皇后陛下の御前で開催されました。本学からは、ピアノ独奏福井敬介さんが出演し、リスト：巡礼の年報　第2年イタリアより第7番「ダンテを読んで―ソナタ風幻想曲」を演奏させていただきました。

平成25年度 クロイツァー賞受賞者決定、記念演奏会出演

レオニード・クロイツァー教授の日本楽界に対する功績を記念し、日本のピアノ音楽発展のために1971年に制定された「クロイツァー賞」。この賞は毎年、教授のゆかりの深かった東京藝術大学、国立音楽大学、武蔵野音楽大学の大学院ピアノ専攻修了生から、特に優れた成績を修めた学生が選出されます。平成25年度、本学からは青木佑磨さんが選ばれました。プログラムは、シマノフスキ：ポーランド民謡の主題による変奏曲 Op.10、バーバー：ピアノソナタ変ホ短調 Op.26。記念演奏会は7月4日（金）19:00 津田ホールで開催されます。

着任外国人教授紹介（平成26年度前期）

ケマル・ゲキチ *Kemal Gekić*（ピアノ／クロアチア）

1962年クロアチア生まれ。旧ユーゴのノヴィサッド音楽院で学ぶ。史上最高得点でディプロマを取得。'81年国際リスト・ピアノコンクールで第2位に入賞。'85年のショパン国際コンクールでは、聴衆の圧倒的支持を得て名誉賞受賞。その後、世界各地で活発な演奏活動を展開し大好評を博す。幅広いレパートリーでCD録音も積極的に行い、特にリストの演奏では第一人者として不動の地位を築いている。フロリダ国際大学教授。

ルドルフ・ピールマイヤー *Rudolf Piehlmayer*（管弦楽団指揮／ドイツ）

ミュンヘン音楽・演劇大学にてヘルマン・ミヒャエルの下で研鑽を積み、レナード・バーンスタイン及びセルジュ・チェリビダッケの指導を仰ぐ。レーゲンスブルク劇場、スイス・ザンクト・ガレン劇場第一指揮者を経て、アウグスブルク・フィルハーモニー管弦楽団団長を務める。ベルリン・ドイツ交響楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、モーツァルテウム管弦楽団などに多数客演。1994年、バイエルン州振興賞受賞。'12年9月、本学管弦楽団ドイツ公演でも指揮を行い好評を博した。

ジェームズ・ランブレクト
James M.Lambrecht（ウィンドアンサンブル指揮／アメリカ）

1957年ウィスコンシン生まれ。ウィスコンシン大学ホワイトウォーター校を卒業後、インディアナ大学にて博士号を取得。指揮法、トランペットを学ぶ。ミシガン州にあるOlivet大学のバンドディレクター、アシスタントプロフェッサーを務めた後、'88年よりオーガスタナ大学のバンドディレクター兼トランペット教授として、シンフォニックバンドの指揮者を務めるほか、トランペット奏法、金管アンサンブル奏法、音楽理論などを指導。また、オペラ@オーガスタナ・オーケストラの指揮者も務め、Quad City Youth Symphony Orchestraの指揮者・音楽監督としても活躍した。「全米大学吹奏楽指導者協会」および「国際トランペット協会」メンバー。

武蔵野音楽大学の三幼稚園発表会

武蔵野音楽大学第一、第二、武蔵野の三幼稚園では、園児達による発表会が、それぞれ2月から3月にかけて、大学のベートーヴェンホールや幼稚園のホールで行われました。

▲ ひなまつり音楽会（第二幼稚園）

園児達は、1年間レッスンを重ねてきたヴァイオリンや木琴の他、合唱や合奏などを発表し、元気いっぱいの演奏がホールに明るく響きました。お父さん、お母さんをはじめたくさんのお客様がつめかけ、温かな拍手に園児達はとても嬉しそう。会場は笑顔に溢れていました。

▲ 表現発表桃の会（武蔵野幼稚園）

●表紙の顔

重松 聡さん

重松 聡さんは、武蔵野音楽大学のピアノ教授・器楽学科長として、後進の指導に当たっています。

武蔵野音楽大学を首席で卒業。同大学院修了。在学中、同大学管弦楽団のソリストとして定期演奏会に出演。卒業演奏会、読売新聞社主催新人演奏会に出演。また、大学院在学中に第一回リサイタルを開催し、「音楽の友」ほか音楽誌上に好評を博しました。1981年スイスに留学。ジュネーヴ音楽院にてルイ・ヒルトブランに師事。ピアノ、室内楽を専攻。クラス・ド・ペルフェクショヌマン修了。この間トノン国際音楽家の集い、ジュネーヴのILOホールにおける演奏会等に出演。

'84年帰国後、各地でのソロ・リサイタルに加え、本学ウィンドアンサンブル、米国アイオワ州ルーサー大学コンサートバンド、東京交響楽団等と共演ほか、内外の音楽家との共演多数。ピアノ・デュオの演奏も数多く行い、重松万里子とのデュオライブCD「Satoshi & Mariko Shigematsu Piano Duo Recital in 2005」がルーチスレーベルからリリースされています。

その他、全国各地にてコンクールの審査や公開講座の講師として活躍、ムジカノーヴァをはじめとする音楽誌への執筆、編纂、編曲にも携わるなど、幅広く活動しています。

現在、日本ピアノ教育連盟監事、全日本ピアノ指導者協会正会員・音楽大学代表連絡委員、ショパン・コンクール・イン・アジア組織委員会委員、武蔵野音楽大学器楽学科長・教授。

【今後の音楽活動】

●8月17日㈰
福岡県直方市
ユメニティのおがた大ホール

●10月18日㈯
旭川市大雪クリスタルホール音楽堂

ほか

▲ ひなまつり音楽会（第一幼稚園）

武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金　ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、江古田新キャンパス建設基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。　学校法人　武蔵野音楽学園

※ご芳名（五十音順）は、平成25年10月15日から平成26年1月31日までにご寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何とぞご了承ください。

【同窓生】宇佐美恵美様　榎本禮子様　小倉幸子様　加藤正男様　加藤雅子様　兼古千恵様　小沼正江様　佐藤啓子様　佐藤文子様　巽 蔦枝様　廣田幸夫様　藤浦君子様　許 伯恵様　MEC 一同様　平成11年度入学生同期会一同様

【在学生・同ご父母】泉 茂美様　大井手宏暢様　佐藤 桂様

【役員・教職員・一般・他】赤羽裕子様　浅野しのぶ様　阿部いと子様　今泉裕之様　江藤京子様　奥田 操様　上運天迪子様　北田光伸様　北村圀夫様　栗山和子様　コッホ中村幸子様　薦田治子様　佐藤 愛様　佐藤 徹様　白石晃子様　高久 進様　髙谷 綾様　多田直子様　徳川愛子様　長尾立矢様　永田順子様　奈良孝春様　二瓶武廣様　福井直昭様　福島美津枝様　堀 俊夫様　丸山忠璋様　光信捷彦様　宮﨑 梓様　望月一史様　吉岡千賀子様　（他に匿名を希望される方10名）

栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）

（順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの）

●第26回「辻　荘一・三浦アンナ記念学術奨励金」（立教大学）受賞　福田　弥（本学講師）

●埼玉県「平成25年度下總皖一音楽賞（音楽文化貢献部門）」受賞
秋山　紀夫（昭和28年短期大学部音楽教育学科卒声楽専攻）

●平成25年度北海道文化奨励賞受賞　井田　重芳（昭和49年大学卒トランペット専攻）

●第17回　松方ホール音楽賞（声楽部門）受賞
前川　依子（平成16年大学卒声楽専攻　本大学院修士課程修了）

●東京佼成ウインドオーケストラにホルン奏者として入団　堀　風翔（平成23年大学卒ホルン専攻）

●大阪フィルハーモニー交響楽団にホルン奏者として入団　高橋　将純（平成15年大学卒ホルン専攻）

●第44回　イタリア声楽コンコルソ　金賞受賞
髙畠　伸吾（平成17年大学卒声楽専攻　本大学院修士課程修了　本高校卒）

●第4回　ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan　全国大会　自由曲コース　大学・一般A2部門　金賞、審査員特別賞受賞　横山美雪（平成7年大学卒ピアノ専攻　本特修科修了）、大学・一般A1部門　銅賞受賞　原田　芽季（大学3年次在学ピアノ専攻）、ディプロマ賞受賞　藤澤　菜那（平成25年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程1年次在学）、●第23回　日本クラシック音楽コンクール　全国大会　トロンボーン部門　大学女子の部　第2位入賞（1位なし）　若田　典子（大学2年次在学トロンボーン専攻）、第4位入賞　山本　知美（大学1年次在学トロンボーン専攻）、フルート部門　大学女子の部　第3位入賞　小池　穂波（大学3年次在学フルート専攻）、声楽部門　大学女子の部　第4位入賞　清水　智紗子（大学1年次在学声楽専攻）、ピアノ部門　大学男子の部　第4位入賞　山本　己太郎（大学2年次在学ピアノ専攻）、一般女子の部　第5位入賞　木林　理絵（平成24年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程2年次在学）、高校女子の部　第1位グランプリ入賞　渡辺　愛菜（本高校1年次在学ピアノ専攻）、第3位入賞　市村　ひかり（本高校2年次在学ピアノ専攻）、第4位入賞　髙久　真尋（本高校2年次在学ピアノ専攻）、第5位入賞　石川　愛（本高校2年次在学ピアノ専攻）、●第4回　日本バッハコンクール　全国大会　一般部門Bコース　銀賞受賞　山口　奈穂（平成3年大学卒ピアノ専攻）、●第28回　練馬区新人演奏会出演者選考オーディション　金管楽器部門　優秀賞受賞（最優秀賞なし）　中井　俊（平成23年大学卒テューバ専攻）、●日本ピアノ研究会　2013年度　ピアノ・オーディション　ヴィルトーズ部門　第9回東関東A　準グランプリ、千葉市長賞受賞、第8回西関東A　準グランプリ受賞　横山　美雪（平成7年大学卒ピアノ専攻　本特修科修了）、●第3回　小田原賞作曲コンクール　第2位入賞（1位なし）　松本　宏子（平成10年大学卒ピアノ専攻　本高校卒　本大学院修士課程作曲専攻修了）、●第7回　横浜国際音楽コンクール　ピアノ部門　一般Bの部　第3位入賞　加治あけみ（昭和50年大学卒ピアノ専攻）、●第15回　ショパン国際ピアノコンクール in ASIA　一般部門アジア大会　銅賞受賞　唐澤　奈々（平成23年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程修了）、●第16回　“長江杯”国際音楽コンクール　ピアノ部門　大学生の部　第6位入賞　橋本　千緩（大学3年次在学ピアノ専攻）、●第19回　KOBE国際音楽コンクール　C部門打楽器　優秀賞受賞　鈴木　孝順（大学4年次在学マリンバ専攻）、●第7回　ベーテン音楽コンクール　全国大会　自由曲コース　ピアノ部門　一般AI　ベスト10賞受賞　横山　美雪（平成7年大学卒ピアノ専攻　本特修科修了）、大学・院生A　ベスト10賞受賞　上田　菜緒（大学2年次在学ピアノ専攻）、バロックコース高校生の部　第1位入賞　石川　愛（本高校2年次在学ピアノ専攻）、●第18回　ベストプレイヤーズ音楽コンクール　審査員賞受賞　横山美雪（平成7年大学卒ピアノ専攻　本特修科修了）、●第22回　ペトロフピアノコンクール　大学生部門　奨励賞受賞　佐藤　晴香（大学1年次在学ピアノ専攻）、●埼玉県芸術文化祭2013　第6回熊谷ひばりピアノコンクール　F部門　金賞、埼玉県知事賞受賞　渡辺　愛菜（本高校1年次在学ピアノ専攻）、●第14回　北関東ピアノコンクール　ソロ高校生Sの部　第2位入賞　市村　ひかり（本高校2年次在学ピアノ専攻）

※上記の他多数。大学ホームページをご覧ください。

平成 26 年度 4 月～7 月　公開講座・演奏会のお知らせ

武蔵野音楽大学音楽学部新人演奏会 ～平成25年度卒業生による～	4月22日(火) 18：30 ヤマハホール	￥1,500〈全席自由〉
武蔵野音楽大学大学院修士課程在学生によるコンサート	4月25日(金) 18：30 モーツァルトホール（江古田）	入場無料〈全席自由・要入場整理券〉
武蔵野音楽大学大学院修士課程新人演奏会 ～平成25年度修了生による～	5月13日(火) 18：30 ベートーヴェンホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
松本美和子　声楽公開講座 ～日本人としてのベルカント唱法への取り組み方～	5月30日(金) 18：30 モーツァルトホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
ニュー・ストリーム・コンサート22 ～ヴィルトゥオーソ学科演奏会1～	6月11日(水) 18：30 ベートーヴェンホール（江古田）	入場無料〈全席自由・要入場整理券〉
武蔵野音楽大学室内管弦楽団演奏会 指揮＝クルト・グントナー	6月27日(金) 18：30 ベートーヴェンホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
ケマル・ゲキチ ピアノ・リサイタル	7月　3日(木) 18：30 ベートーヴェンホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会 指揮＝ジェームズ・ランブレクト 曲目＝全日本吹奏楽コンクール課題曲より　他	7月　8日(火) 18：30 宮崎市民文化ホール（宮崎県） 7月　9日(水) 19：00 iichiko グランシアタ（大分県） 7月11日(金) 18：30 東京オペラシティ コンサートホール	一般￥1,500/小・中・高 ￥1,000〈全席自由〉 一般￥1,500/小・中・高 ￥1,000〈全席自由〉 ￥1,500〈全席指定〉

お問合せ　●武蔵野音楽大学江古田キャンパス演奏部 TEL.03-3992-1120　●武蔵野音楽大学入間キャンパス演奏部 TEL.04-2932-3108
※講師の病気、その他やむを得ない事情により、出演者・曲目等を変更する場合もありますので、あらかじめご了承ください。
※チケットは武蔵野音楽大学ホームページ　http://www.musashino-music.ac.jp/ でも予約ができます。

平成 26 年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 学校説明会・オープンキャンパスのお知らせ

本学では、武蔵野の教育理念・内容を理解していただくために、音楽大学、高等学校音楽科に進学を希望している高校生、中学生、小学生とその指導者、保護者の方々を対象に武蔵野音楽大学、同附属高等学校の学校説明会・オープンキャンパスを各地で開催しています。平成26年度は以下のとおり開催しますので、ぜひご参加ください。

【説明会の内容】●10:00 ～ 16:00（予定）
●ガイダンス（大学・高等学校別に行います）
●ミニコンサート　●受験相談（希望者のみ）
●ワンポイント・レッスン（希望者のみ）　●参加無料

【お申込み・お問合せ】武蔵野音楽学園広報企画室
〒176-8521 東京都練馬区羽沢1-13-1
TEL.03-3992-1125　FAX.03-3991-7599

※学園ホームページ http://www.musashino-music.ac.jp/
モバイルサイト http://musaon.jp/ からも申し込みができます。

日　程	会　場
6月　1日(日)	長野県長野市「ホクト文化ホール」
6月　1日(日)	愛知県名古屋市 「ヤマハミュージックリテイリング名古屋店」
6月　8日(日)	オープンキャンパス　江古田キャンパス
6月15日(日)	宮城県仙台市「常盤木学園」
6月15日(日)	北海道札幌市「ヤマハミュージック リテイリング札幌センター」 北海道立道民活動センター「かでる2・7」 ※スケジュールの詳細（会場別）は申し込み時にご確認ください。
6月22日(日)	オープンキャンパス　入間キャンパス
6月28日(土)	静岡県三島市「三島市民文化会館」
6月29日(日)	茨城県水戸市「常陽藝文センター」
6月29日(日)	福岡県福岡市「アクロス福岡」
8月25日(月)	オープンキャンパス　江古田キャンパス
11月16日(日)	オープンキャンパス　入間キャンパス

平成26年度夏期講習会のお知らせ

平成26年度の武蔵野音楽大学、武蔵野音楽大学附属高等学校の夏期講習会（音楽大学受験講習会、高校音楽科受験講習会、社会人のための夏期研修講座、免許法認定講習）を、下記のとおり実施します。

講座名	会　場
大学受験講習会　1期:7/28 ～ 7/31　2期:8/2 ～ 8/5	江古田キャンパス
高校音楽科受験講習会　7/28 ～ 7/30	
社会人のための夏期研修講座　7/31 ～ 8/2	
免許法認定講習　7/25 ～ 8/5　※教員免許状更新講習とは異なります。	

※実施日程、会場が昨年と変更となっている講習会があります。詳細は要項でご確認ください。◎講習会要項は6月上旬発行の予定。要項の請求は、武蔵野音楽学園広報企画室（TEL.03-3992-1125）またはホームページ、モバイルサイトにてお申し込みください。（要項は無料、郵送料は学園が負担します）
ホームページ http://www.musashino-music.ac.jp/　モバイルサイト http://musaon.jp/

平成26年度 教員免許状更新講習のお知らせ

武蔵野音楽大学では、平成26年度も教員免許状更新講習を開講します（現在認可申請中）。本学では、小学校、中学校および高等学校の、音楽を中心とする教員を対象に、必修領域「教育事情」12時間と選択領域「教科指導」18時間、合計30時間を開講します。

講習期間	会　場
①必修領域（12時間）7/20・21 の2日間 ②選択領域（18時間）7/22～24 の3日間	江古田キャンパス

◎要項は4月下旬発行の予定。要項の請求は、武蔵野音楽学園広報企画室（TEL.03-3992-1125）、またはホームページ、モバイルサイトにてお申し込みください。（要項は無料、郵送料は学園が負担します）

ユーフォニコン

ビール＆スチュワード製
ロンドン　1845年頃　幅115cm

ユーフォニコンは、ロンドンのジョン・スチュワードが1841年に考案した、弦を張る鉄のフレームがキャビネットの外側に張られたアップライトピアノである。この楽器は、ハープ型のフレームが本体から直立して突き出ているタイプが一般的で、その形状から「ハープピアノ」とも呼ばれる。しかし、写真の楽器は通常のアップライトピアノに近いスタイルで、ユーフォニコンの特殊な例として注目することができる。ユーフォニコンは、金属フレームを視覚的に活用したもので、ピアノの装飾性を強く意識させる目的で登場したと考えられている。

ヴィクトリア女王が統治したヴィクトリア朝時代（1837～1901）のイギリスは、産業革命による経済の発展が頂点を極め、その国力から「太陽の沈まない国」と呼ばれた。この時代は英国文化の最盛期で、ターナーやワッツなどの画家が輩出され、ドイルやディケンズなどの作家が活躍した。特に上流階級の人々の間では、自宅のサロンで茶会を開くことが流行し、そのサロンには意匠を凝らした家具や絵画などの美術品が不可欠であった。そのような中で、ピアノはサロン用の楽器として急速に普及し、イギリスのピアノ・メーカーは市場獲得のために次々に新たなスタイルのピアノを発表した。ユーフォニコンもそのような当時の風潮が生んだ楽器で、目新しいアップライトピアノは、サロンを訪れた人々の目を惹いたに違いない。

写真のユーフォニコンは、金属フレームが優美な曲線のフォルムを形成し、そこに塗られた青色の塗装が清楚な品格を醸し出している。この楽器からは、スチュワードの卓越したデザイン能力を窺うことができる。

（武蔵野音楽大学楽器博物館所蔵）

江古田キャンパス楽器博物館休館のお知らせ

「江古田キャンパス楽器博物館」は、リニューアルオープンに向けて、現在休館中です。平成29年度完成予定の江古田新キャンパス内にリニューアルオープンいたします。なお、「入間キャンパス楽器博物館」及び「パルナソス多摩楽器展示室」は通常通り開館しています。休館中は、ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解いただきますよう、お願い申し上げます。

✣目 次✣

平成26年度を迎えて　福井直敬 …… 1
自分のしていることを愛しなさい　ペーター・ヤブロンスキー …… 2
音楽の万華鏡　二つの定期演奏会　楢崎洋子 …… 5
私の学園生活　就職活動について話そう …… 6
卒業生インタビュー　常に変化しつづけたい　千脇健治 …… 9
MUSASHINO NEWS …… 11

✣本学合唱団、東京芸術劇場シアターオペラに出演
✣MUSASHINO 掲示板
✣着任外国人教授紹介
✣武蔵野音楽大学の三幼稚園発表会
✣武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金　ご寄附をいただいた方々
✣栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）
✣平成26年度4月～7月 公開講座・演奏会のお知らせ
✣平成26年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 学校説明会・オープンキャンパスのお知らせ
✣平成26年度夏期講習会のお知らせ
✣平成26年度教員免許状更新講習のお知らせ

武蔵野音楽大学大学院
博士前期課程・博士後期課程
武蔵野音楽大学
武蔵野音楽大学別科
武蔵野音楽大学附属高等学校
武蔵野音楽大学第一幼稚園
武蔵野音楽大学第二幼稚園
武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園
附属音楽教室 江古田・入間・多摩

✣発　行✣
学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス　●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1 TEL.03-3992-1121（代表）
入間キャンパス　●〒358-8521 埼玉県入間市中神728 TEL.04-2932-2111（代表）
パルナソス多摩　●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1 TEL.042-389-0711（代表）

http://www.musashino-music.ac.jp/
2014年4月1日発行　通巻第109号

モバイルサイト
http://musaon.jp/